

平成27年10月
内閣官房内閣人事局

1. 「ゆう活」実施者数・実施日数

	合計	実施日数 (1週間未満)	(1週間以上2週間未満)	(2週間以上4週間未満)	(4週間以上)
本府省等	約3.7万人	約0.3万人	約0.7万人	約0.7万人	約2万人
地方支分部局等	約18.4万人	約5.0万人	約4.5万人	約3.4万人	約5.5万人
合計	約22.1万人	約5.3万人	約5.3万人	約4.1万人	約7.5万人

【参考】本年6月時点における実施予定者数 約22万人(うち本府省等 約3万人、地方支分部局等 約18万人)

2. 「ゆう活」1人当たり平均実施日数・勤務開始時刻

	合計	うち7時台	うち8時台
本府省等	24.4日	3.0日	21.4日
地方支分部局等	17.4日	13.4日	4.0日
全体平均	18.6日	11.7日	6.9日



3. 「ゆう活」期間中の毎水曜日の退庁結果(本府省等のみ)

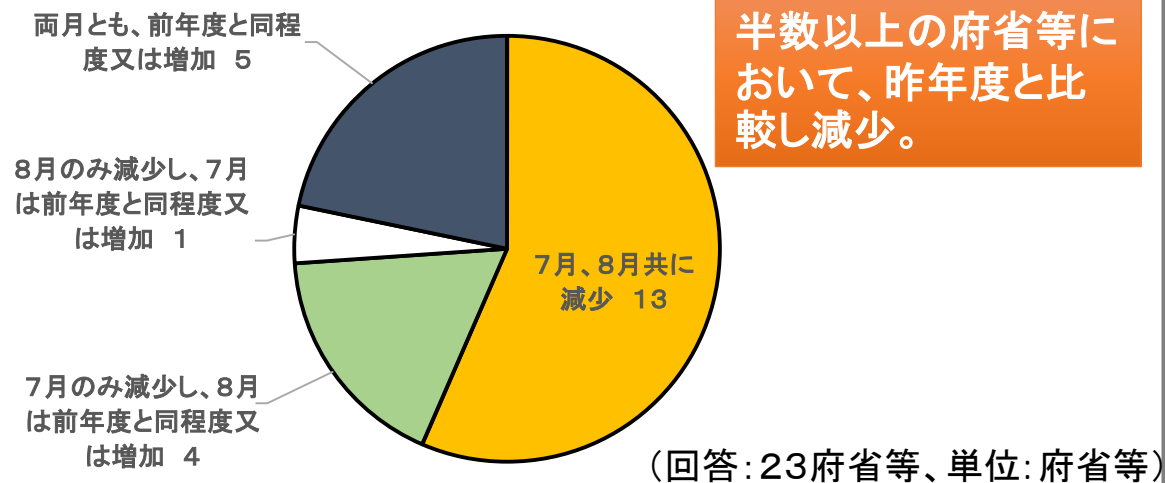
	平均	7月1日	7月8日	7月15日	7月22日	7月29日	8月5日	8月12日	8月19日	8月26日
早朝出勤実施者の定時退庁割合	60.9%	65.3%	56.9%	57.3%	55.3%	64.7%	58.0%	66.9%	58.8%	65.2%
職員全体の20時までの退庁割合(※注)	81.2%	87.6%	79.3%	82.7%	80.3%	82.7%	78.3%	83.3%	77.5%	79.2%

【参考】6月24日の職員全体の20時までの退庁割合:71.3%

※注 早朝出勤を実施しない機関(交替制勤務等の事情により、実施が困難な機関)の職員を除く。

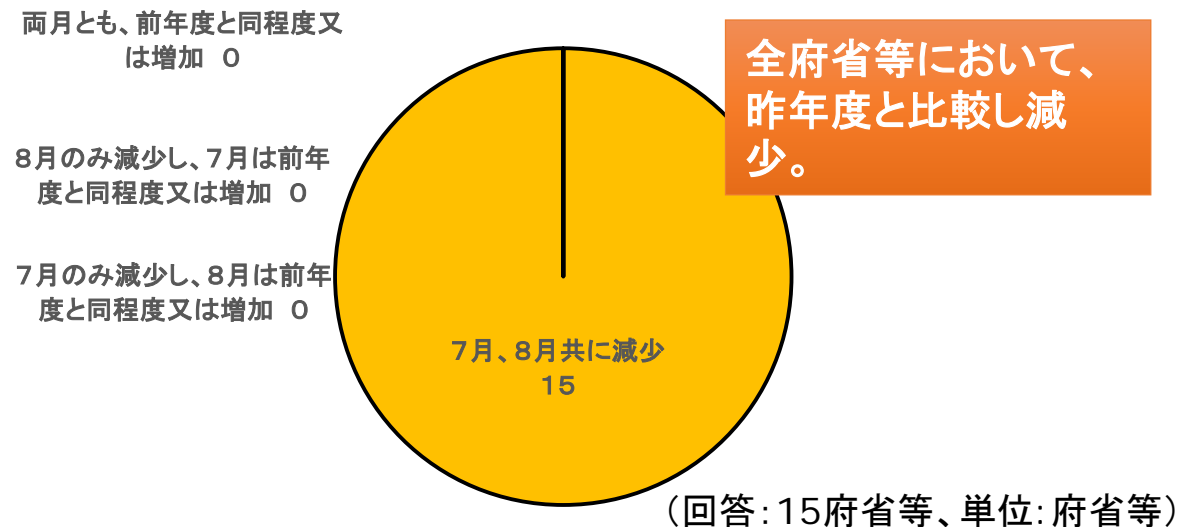
4. 各府省等人事担当課調査結果（回答：23府省等人事担当課）

① 昨年度7・8月と比較して超過勤務時間が減少しましたか？（本府省等）



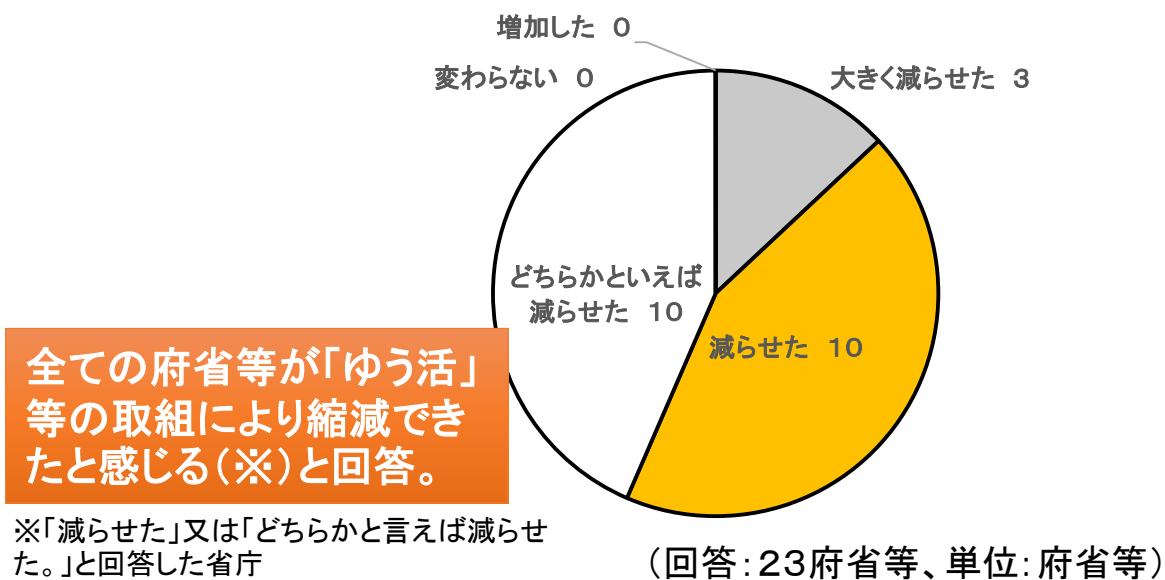
半数以上の府省等において、昨年度と比較し減少。

② 昨年度7・8月と比較して超過勤務時間が減少しましたか？（地方支分部局等）



全府省等において、昨年度と比較し減少。

③ 「ゆう活」等の取組により、定時以降の業務時間を縮減できたと感じますか？



全ての府省等が「ゆう活」等の取組により縮減できたと感じる(※)と回答。

※「減らせた」又は「どちらかといえば減らせた。」と回答した省庁

④ 「ゆう活」・WLB月間の取組の効果について（自由記述）

- 定時退庁するという機運が醸成され、若手職員でも、「ゆう活」という大義名分をもって退庁できる雰囲気ができた。
- 育児時間や育児短時間制度を活用している職員から、「様々な勤務形態の職員がいたことから普段より退庁しやすかった」という意見があった。
- 「一緒にいる時間が増えたことで、家族や地域とのつながりを考える機会が得られ、有意義であった。」「閉店時間が早い店舗を利用することができた。」等の意見があった。
- 定時後に、職員による自主企画研修として「ゆう活勉強会」を開催するなど、自己研鑽の活動を行うことができた。
- 業務について、無駄がないか再確認するいい機会となった。
- 限られた時間の中でメリハリを付けて、業務遂行する意識が芽生えた。
- 公印省略によって、文書のやり取りが合理化できた。
- 「ゆう活」を機に仕事と家庭の両立について職場内で話題にすることができ、その他の制度も含めて積極的な活用を促すことができた。